

○5番（前田せつよ）

5番、前田せつよです。通告に従いまして質問をさせていただきます。

公立学校における行事等のよりよい展開について。今、子供たちを取り巻く環境に対して、家庭教育・学校教育・地域の教育力等、社会全体の教育力の向上が強く求められております。

私は、社会のために教育をするという視点よりも、教育のために社会づくりをするという観点からの施策づくりが、よりよい教育環境の整備につながると考えます。

現在、町内に公立は幼稚園1園、小学校2校、中学校1校の4校でございます。園や学校の行事は、子供たちにとって最大の関心事であり、楽しみであり、目標でもあります。中にはその行事を目的に学校に来ると言い切る子供たちもいます。特に幼稚園、小学校の運動会では、保護者だけではなく、祖父母を含め家族みんなで集う行事ですが、本年の秋口は猛暑の影響を配慮して、神奈川県内でも開催時期を変更したため、大変にご苦勞をされた学校もございました。

この時期の屋外行事について、町の教育行政としては柔軟に対応をしながら、環境の充実と新しい展開へと取り組んでいくことが急務であると考えます。

中学校の屋内行事に関しては、今年度の文化祭は、生徒数の増加などにより初めて町外施設での開催となり、運営に当たっては大変にご苦勞があったと伺っております。

そこで二つの項目について伺います。

1、園や学校の年間行事について、開催日・開催場所等を調整する機能は町として万全になっていますか。

2、行事内容がPTAなどと共同で取り組もうとする場合は、行事内容・日程及び会場の決定や変更について情報の共有化が重要ですが、今後の展望を伺います。

以上、檀上からの質問とさせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

前田議員のご質問にお答えいたします。

一つ目のご質問の園や学校の年間行事について、開催日、開催場所等を調整する機能は、町として万全になっていますかというご質問についてお答えいたします。

園や学校の年間行事につきましては、前年度の2月に足柄上教育事務所が主体となりまして、全ての予定された対外的な大きな行事について調整を行い、決定しております。その上で各園、学校の行事が予定されていきます。町の行事との関係については、町民カレンダー作成時に、それぞれの課などの行事を入れたものが、園や学校にも配られて、自校、自園の行事の調整を行っています。

また、校長・園長会でも情報交換を行い、次年度の大きな行事を決定しています。他に影響の少ないものについては、園や学校の年間行事計画の交換によって、他校、園の計画を情報収集しております。できるだけ同時開催のほうがよい行事と分けたほ

うが、いい行事を考えて調整をしています。

学校行事につきましては、主は学校長が学校経営の中で決めていくことが原則ですので、教育委員会や町が強制的に調整することはございません。調整する機能を持っているかという質問に対しては、調整機能は持っているとお答えいたします。

二つ目の質問の行事内容がPTA等と共同で取り組もうとする場合は、行事内容、日程及び会場の決定や変更について、情報の共有化が重要ですが、今後の展望を伺いますということについてお答えいたします。

PTAの行事等については、新年度になってからの計画が多いという面もあり、重なってしまうことや、調整が難しい面も出てまいります。小さな町の開催ですので、お互いに目的を同じにするものは、共同開催をするとか、参加者が出席しやすい方法も考えなくてはならないというふうに考えます。

会場の決定等については、それぞれの団体や主催者が、目的や内容を考えて決定するものですので、町が積極的に指導するものではないと考えています。

費用を伴うものにつきましては、相談をさせていただき、支援が可能なものについては考慮していますが、ほかの方法や場所が考えられないか等を助言していく場合があります。

町の社会教育施設は限られています。学校教育施設を社会教育施設として使用する場面も数多くあります。

利用者調整会議を開催し、それぞれの対応を検討してもらったり、予約、申し込みの期間をできるだけ長くする等の方法を考えながら、利用者が気持ちよく使用できるよう取り組んでおります。

行事内容がPTA等と共同で取り組もうとする場合は、PTAの皆さんにご協力、ご支援をお願いするものはたくさんありますが、学校長を中心として、ここの学校にあった取り組みをするよう学校長に指導しております。

情報の共有化としては、今のところは、大きな行事が町民カレンダーに記入されていること、町発行のお知らせ版や広報かいせいで次の月の予定を提供しているというのが現状でございます。できるだけ計画を実施するに当たっては、目標が達成できるように、機会あるごとに学校長に指導しております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

ただいま一定の答弁をいただきましたが、何点か再質問をさせていただきます。まず、①の部分についてでございます。調整機能についてでございますが、調整機能について、ある程度のお答えがございましたが、課題が残されている部分がありましたので、伺いたいと思います。学校の行事関係の場合に、会場によっては、急に必要性が出てきたりするもの、品、例えば、テントなどについて、その学校単独では、なかなか調達が急にはできないというような事情が生じることも考えられます。このよう

な際の調達する機能も町の教育委員会に持ってほしいとの町民の強いご意見が届いているような状況がございます。どんなお考えでしょうか。

二つ目に、同じ1項目の内容についてでございますが、万全という部分については、明確なお答えがございませんでしたので、立ち入った形の再質問をさせていただきます。行事の調整や決定について、一定のお答えがございましたが、年間行事を足柄上教育事務所と調整する際に、行政のパートナーである町民やPTA、青少年育成関係者等もその場に参加して、協議の上で決定するような仕組みに変えてみるなどのお考えはございませんでしょうか。ご答弁お願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

私の関連の部分だけお答えします。年間行事の中で、足柄上教育事務所の事業調整会議の出席メンバーを言わなかったもので、そういう形が出るかと思いますが、各町の代表も出ますし、社会教育の代表も出ますし、それぞれの代表が出ていきますので、それぞれの行事について出された中で調整をするということでご理解をください。万全かということは、万全という言葉がないということですが、万全という言葉は使いたくありません。調整能力はあるという形でご理解ください。

それから、調整機能を持っていないテントの物品のことについてですが、若干内容が違うように思うので、逆質問になっちゃうといけないので、ちょっと質問の意味が違うので、課長のほうに報告させます。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（井上 新）

テントの関係のほうにつきまして、お答えをさせていただきます。テントの調達の関係でございますけれども、例えば、今年でいきますと、開成小学校が運動会の際に、暑さ対策ということで、子供たち用にテントを用意したいというようなお話がございまして、ちょうど下延沢の自治会長さんもいらっしゃった会議の席上というふうに聞いておりますけれども、では、自治会のほうからお借りをしながらそういったのを対応してみたらどうかといったお話があったようで、校長先生も、それだったら自治会のテントを借りながら今回の運動会はやってみようというようなお話があったようでございます。そういったお話があったということを教育委員会のほうにも連絡がございまして、教育委員会としても、テントの調達というのはなかなか大変ですので、職員と一緒に出しましようとかか、そういった調整は、こちらのほうでやらせていただいたという経過がございます。

こういった調整をさせていただく反面、開成南小学校のほうは、子供たちに対してテントがなかったというようなお話も逆にございまして、それはそれぞれの学校でいろいろ工夫しながら、そういった暑さ対策を今回やったといったところでございまして、開成小はテントを設けて、開成南小学校はテントがない分、学校の教室を開放し

て、冷房を入れながら対応したというようなことを聞いております。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

まず、具体的な事例のことで、テントのお話が出たわけですが、実は広報かいせいの11月号に開成小学校の先生がテントについて、このような形で述べていらっしゃいます。「すばらしい運動会を迎えられたのは、子供たちの頑張りもありますが、そればかりではありません。今年は例年にも増す猛暑が続き、日影のない応援席では、子供たちの体調が心配されました。そこで自治会にテントの借用をお願いしたところ、快く貸してくださいました。子供たちがテントの中で一生懸命応援をしたり、演技を見たりすることができました。おかげさまで体調を崩した児童も少なく、閉会式でも最後まで話をしっかり聞くことができました」ということで、11月号の広報かいせいにも載ったところでございます。

運動会が終わりまして、テントにつきましては、私の地元は開成南でございますので、数多くの方が、どうしてうちはなかったのかというようなことで、いろいろご意見を頂戴して、また、広報かいせい号が出た後で、えっ、開成小学校がテントがあったのかということで、やはりご要望がかなり強いようなお話が出たところでございます。聞くところによりますと、開成南小学校のお子さんも、水分補給のご配慮とか、先ほど答弁いただいたとおり、本当に先生方のご努力で、当日、無事にご帰宅されたようではございますが、おうちに帰ってからかなりぐったりされてということで、困ったわというようなお話も聞いたところでございます。私としましては、テントが不足していた形が見られたというような、あえて表現をさせていただきますけれど、今後のためにこれについて、やっぱり町での学校への貸出機能の可能体制というような形の調整を文章なり、何らかの形で先見事例として一つ報告書などに残し、これだけ猛暑だったり、今は寒い時期でございますから、激しい猛暑とそれからすごい寒かったりとかということでございますので、特にそういう季節感に多くかかわる行事に対しては細心の注意を払っていただいて、子供たちの安全という部分では、先生方は日々の授業ですとか、日々の行事とかで多忙を極めておりますので、一步また指導に当たられる、また、アドバイスを連携をとられている教育委員会としては、そういうような複眼的な視点からこのことも真摯に受けとめていただいて、次年度にはそういう報告書などをつくるような形で、対応をぜひしていただきたいということで要望するところでございますが、いかがでございましょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（井上 新）

確かに子供たちの体調であったりとか、そういったところは各学校長も大変気にしているところでございます。運動会は、今年は9月15日、9月の中旬ですので、残

暑が残っていたという経過がございますけれども、学校現場のほうは、運動会の当日よりも、運動会の練習をもっと暑い時期にやっていたりとかいたしております。そういったときにも、熱中症対策とか、そういったところに万全を期しながら学校のほうでは対応をしているという現実がございます。

それで、テントの問題ということでお話が出てございますけれども、テントが問題ということではなくて、暑さ対策であったりとか、去年までは開成小もテントがない状態で運動会をやっていたわけですので、そういったところの対策をどういうふうにしていくかということが問題だというふうに思っております。

ちなみに来年は、9月21日、もう既に学校長のほうでは考えられているようだけれども、時期をずらして、少しでも暑さがしのげる時期がいいのではないかなと言ったところのご意見も、今ちょうど出ているところでございます。

緊急の今年の開成小のテントにつきましては、対応策としてどういったことが考えられるかというところで、開成小はテントを考えられましたし、開成南小学校は、では冷房を入れながら教室を開放していこうというようなことを考えられたというふうにご理解いただければというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

教育現場に携わる方々というのは、また、議員も然るべしと思うのですけれども、やはり万全を期すためにいろいろな予測をしていくというような目線が必要ではないかと思えます。2校あるがために、いろいろな部分で比べられる開成町ではございますが、ハード面では、今、開成小はいろいろな面で改装工事等が行われておりますが、それぞれの学校の立地条件ですとか、歴史的なものですとか、さまざま特徴がございますので、何も全部私は二つの学校は同じにすべきということではなくて、やっぱり最低限、これは絶対に外せないという子供たちの安全、健康という部分に関しては、片方の学校からいい案が出たら、それはまた片方の学校にリンクしていくというような、そういう目線も、またそういう柔軟性もますます持って、教育委員会には臨んでいきたいなというような思いがございます。

先ほど一番最初にご答弁をいただいた教育長のお話の中にもございまして、例えば、②個目のお答えではございましたけれども、小さな町での開催なので、お互いに目的を同じにするものは共同開催するとか、参加者が出席しやすい方法も考えなくてはならないということで、ご答弁の中にも具体的な施策を盛り込んだ文言がそこかしこに拝見でした次第でございます。

教育委員会からでも、これだけ具体例が、答弁の最初の部分でもそこかしこに温かいフレーズが載って、ご答弁をいただいたわけですから、やはり町民、保護者、また町の行事に係る全てのいろいろな方のご意見を集約していただいて、その指揮、コンダクターといいますか、そういう機能をますます教育委員会には発揮していただきたい

いというふうに思いますので、また、来年度も事故なく運動会が開催されることを望むところでございます。

9月云々という日付ではございましたけれども、こういう異常気象でございます。いつ何時、猛暑が襲ってくるやもしれませんので、そのときには本年度のことを踏まえまして、柔軟な対応を望むところでございます。

では、次の質問に移らせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

では、教育長、発言を許可します。

○教育長（鳥海 均）

次の質問ということですので、前のことでちょっとお答えしておきますが、私は常々開成小学校と南小学校が二つできたことに対して必ず比較されるので、全て話し合っただけというよりは指導しております。ですから、今回のテントのことにつきましても、開成小からテントを使うと話があったその日に、もう南小学校に連絡をしました。開成小学校はこういうふうにするけれども、南小学校も同調するのか。自分たちの考えをきちんと持たないと、必ずそのことに対して話が出るということは、私は想定していました。そして、校長に依存しました。そして、校長は職員と相談をして、今回は使いません。いいんだ、それで、じゃあやいなさいということにしました。ですから、調整機能というのは、僕が言っているのは、情報を得た段階で、小学校は小学校、中学校は中学校に情報を流す機能は持っているということで、ぜひご理解をしていただきたいと思います。知り得た情報は、お互いに流しています。ですから、お互いに地域は違うんだけれども、開成小学校、開成南小学校は文命中学校に行く一つの過程として同じなんだから、ともに行事にしても、今まで少し交流があったが、その後、交流がないじゃないか。もう少し交流をしないと、さまざまな形で指導はしていますが、情報が地域の保護者の方に伝わらなくて、何か開成南はテントを使わなかった、そういうふうにはひとり歩きしたのかなというふうに思っています。調整はしたというふうには私はお答えしておきます。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

教育長から開成南小に情報が行ったという事実は伺いました。それでやはりこういう形でクレームが、クレームと言っては失礼ですけども、声が上がるという予測も教育長はされていたと。まさしく教育長の思いが、そのまま開成南小学校に反映されればよかったなというふうに思うところでございます。

ここで教育基本法につきまして、今のお話にもちょっと関連が出てくるかと思いますが、先月11月に、町民センターで教育委員会開催の講演会がございました。前教育長の松浦教育長が見えてのご講演だったわけですが、その中で平成18年12月に改正された教育基本法の改正案第13条をもとにコメントが資料配付の中で入った文言がございますので、僭越ですが、ご紹介をさせていただきます。

教育基本法改正、平成18年12月第13条、学校、家庭及び地域住民、その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。これに際しての文科省のご講演の松浦さんのコメントが文章2行でございます。

地域との連携、協働を通じどのような教育施策を実現していくのか。それぞれの教育委員会や学校長の具体的な行動が問われていると。まさしく具体的な行動というような文言が目に入ってきましたので、ここで1言ご紹介をさせていただきました。

それでは、次の項目の質問をさせていただきます。②の項目に対しての再質問をさせていただきます。情報の共有化についてでございます。情報の共有化は、町民カレンダーやお知らせ版、広報かいせいなどのお答えでしたが、しかし、その行事のプログラムの中で深く携わる方々には、その情報を提供する内容が少々雑駁ではないかというようなご意見を多々聞いているところがございますが、そのような改善策は何かおありでしたら、お尋ねしたいと存じます。

○議長（茅沼隆文）

教育総務課長。

○教育総務課長（井上 新）

お答えをさせていただきます。まず、行事内容、日程等の関係でございますけれども、学校行事につきましては、学校長が全てその辺の開催の決定をさせていただいておりますので、教育委員会といたしましては、ちょうど今日持って来たんですけれども、これは今年の平成24年度行事予定ということで何が書いてあるかということ、これは県とか足柄上教育事務所のスケジュール、町とか教育委員会のスケジュール、そして幼小中のそれぞれの学校行事のスケジュールが、年間を通じてほぼ毎年、その年度の前の先ほど教育長申されましたけれども、2月に町の行事も町民カレンダーで決まってまいりますけれども、そういったことも含めて決定をさせていただいておりますので、その中で全てやっているところです。

例えば、ちょうど昨日、12月3日は登校指導ということで、町内でボランティアの方たちも一緒に参加していただきながら、子供たちの登校状況を見守っていただいている行事があります。こういったのも年間の行事ということで、既に組まれていて、幼・小・中の中でもこの日にやりますよというお知らせがいつていると。そういった形の調整をやっていたりとか、また、開成小学校、開成南小学校は、授業参観と学級懇談会ということで、もう年度当初から予定をされていて、実際に昨日実施をされているといったこともありまして、実は結構細かく学校行事というのは、年の年度が始まる前にある程度決まっております。そういったことを受けまして、学校内でいろいろ調整をしながら、多少動かしながら、PTA行事と一緒にやることは、学校長は調整をしながらやっておりますので、ほぼこちら教育委員会と学校、そういった共通理解の上に、年間行事をいろいろ調整させていただいているといったところでございますので、こういったお話が届いているのかということがあるわけですが、一応そういった形で、教育委員会と学校、少なくとも学校長に対してこういった形の調

整をさせていただきたいと。学校内でも年間行事がこうですよということは、当然やっていたという形になってございます。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

行事のほうは、町民カレンダーにしっかりさまざま組まれておりまして、2月にはもうそういう形で出ているということで周知させていただきました。

私が先ほど申し上げました、プログラムに直接携わる方にとりましては、もう少し深いところまで知りたいと。ですから、2項目の内容の中にPTA等というような文言を入れさせていただいたわけでございます。最初、檀上でお話しさせていただいた文命中学校の文化祭は、具体例でまことに恐縮でございますけれども、本年は初めて町外で開催されたわけですが、そのことにつきましても、何か聞くところによりますと、やはりいろいろなご意見があって、なぜそちらのほうに行ったというような、町外で開催されたメリット、デメリットも含めまして、どうしてそういうふうになっていったのか。関係者の方でさえも、あれよあれよという間にとか、いろいろな話が錯綜するようなことも聞いてございますので、ああいう形で、今回、文命中学校が、文化祭があちらに行かれた理由、また、その中でメリット、デメリットとか、また来年度に向けて、そういうような行事に関しては、やはり携わる方々が深く行事に対して関与していれば、もう少し、終わった後にいろいろなご意見が錯綜することがなかったのではないかなというような思いもございまして、今回質問をさせていただいたわけでございますが、その件につきましても、わかる範囲で結構でございますので、どういう形で行事があちらになっていったのかというようなお話も伺えればと思います。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

ちょっと細くなっちゃうので、本当はゆっくり話をすればわかってもらえるかなというふうに思うんですけども、ことの最初は教育委員会に予算折衝にきたときが始まりでございます。とにかく施設をほかで使うというような予算を計上してきたというのが始まりでございます。その時点で、なぜ体育館ではできないのか。体育館でやる教育的メリット、デメリットは何なのかということ相談して、教育委員会としては、それはやはり学校でやるべきではないか。ですから、予算としては出せないという結論を出した。その経過の後につきましても、学校長とPTAとが中心となって、予算がない。では日ごろの文化活動の発表をどういうふうにしたら効果的に保護者や地域の方に発表でき、また、子供自身が満足するかということで、たまたま校長もこの4月にかわったわけですが、前任の校長との引き継ぎの中で、そういうことを課題にしながら、新年度、またPTAの役員さんもかわりましたので、その中で結

論を出して、今回を迎えたというのが現状です。

ですから、さまざまな意見はあると思いますが、結果的には、学校行事は校長が責任を持って実行するものですので、これは学校行事86時間、今、文命中学校は計画していますが、その86時間の中で、六つのエリアがあるんですけども、その中の学芸的行事の中でとっている時間ですので、その時間が何時間とれるのか。交通に、いわゆる文化センターまで行くのに歩く時間であるとか、さまざまなことを考慮して、86時間の中で教育課程が組めるという判断をして実施したものというふうに思います。

ですから、費用の面であるとか、子供が現地まで行く安全の問題であるとか、さまざまなことを勘案した中でゴーサインを出したというのが校長のサイドだというふうに思っています。ですから、細かな点で右から見るか、左から見るかによって、一つの事業もさまざまな色合いを示しますので、学校としてはこれでやっていこうという形で、今年度は松田の文化センターを借りてやったというのが現状です。

来年についても、そういう希望を持っているということも、今、交渉の中でできています。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

どういうことかということ、きっかけの部分を今伺ったわけではございますが、やはり最初ご答弁いただいた中でも、教育委員会としても、PTAの行事については、新年度になってからの計画が多いという面も重なって、いろいろな調整が難しい面も出てくるというようなご答弁を教育長からいただきまして、また、PTAの人もかわるというようなお話もございました。そして、やはりそんな中で、来年度もそのような方向性でというようなお話があったわけではございますが、やはり人もかわる。また、新年度になってからの急な変更、こういうことは、今後さまざまな行事に関しても想定でき得ることかと思えます。その一例が、今回の文命中学校の文化祭ではなかったかと思うところではございます。それをやはりスムーズに運営し、指導し、連携をとっていくという機能が教育委員会にはあるかと考えます。そうなったところ、それをマニュアル化する。例えば、こういうときにはこういう対応していこうというような形で、そういう仕組みづくりというようなものをここで考えておく必要もあるのではないかなというふうに思います。

ただ、学校長が最終的な決断を下すということではありますが、実際、文命中の生徒は、開成町から橋を渡って、松田の町民文化センターに行き帰り列をなして歩いていくというようなことではございますので、安全性の管理等も含めまして、そういうようなマニュアル化、何かことがあったときに、人がかわっても、PTAの方々がかわっても、また、教育委員会の中で、その調整に当たられる町教育行政部局の方々がかわっても、誰がどのポジションについても、教育行政はいつも満遍なく安全な形で子

供たちに対応できるようなマニュアル化を提案するところがございますが、いかがでございましょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

公立学校は、開成町の学校運営管理規則という規則のもとに全て運営するようになっておりますので、行事については、許可制と届け出制の両方あります。ですから、どういう内容で、どういう目的で、幾らかかって、どんな内容をやるのかということに対しては、教育委員会に2週間前に出てきます。ですから、最悪はその時点で、その状況ではだめだと、これはここを考慮しなさいとか、そういうふうにしていますので、強いてマニュアル化ということになると、その届け出許可書の形がマニュアルになっているというふうに思います。

ただ、今、議員おっしゃるように、一つの行事のことについて、PTAから出てきたとき、保護者から出てきたとき、そういうときにどういう対応をするかという細かなことについては、ちょっとマニュアル化は難しいかなというふうに思っております。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

2週間前に教育委員会にその届けがなされるということでございますので、そこで先ほど来から、教育長のいろいろな子供を本当に大切にとか、こういう思いがあるんだというようなお話を聞いてございますので、2週間前に来た時点で、教育委員会としての、本当に大きな目線で学校教育を見ていただきまして、また指導、示唆していただければいいなというふうに感じるところでございます。

実は、先ほど11月の講演会のお話をさせていただいて、例題に出させていただいたわけでございますが、我が開成町は、誇れるべきことにコミュニティスクールが全校なされまして、より教育の形の行事の件におきまして、地域の皆さんにおきまして、本当にますます充実をしていくんではないかなということで期待を大きくするところでございます。

実は平成20年、4年前の12月からコミュニティスクールに指定されました、川崎市の中之島中学校というところがございまして、私、昨年、川崎市にコミュニティスクールがかなり進んでいるということで、ちょっとお尋ねした中で、学校の評価の検討、評価検討には、今回、一般質問では入っておりませんが、その内容をちょっと読んだときに、これは行事に関しても十分に使えるなというような内容の文言がございましたので、これは川崎市の教育委員会の発行のパンフレットにも書いてあるものでございます。

2011年、去年、川崎市と連携をとりましたので、去年の教育委員会のリーフレットでございますが、2011年度、本年度保護者、生徒、教職員の設問項目を統一し、その違いを討議し、次年度以降の活動及び学校評価項目の検討を図るという一言

がございました。これはさまざまところで使えるものではないかな。先ほど来、やりとりをさせていただいた中で、保護者が考えるもの、また、生徒や子供たちが考える感覚、そして教職員が考える感覚、一つ一つの事柄、特に行事を終えてからの考え方、また感じ方、メリット、デメリットにしても、それぞれ三者三様、また、多種多様な形で一つ一つのことを精査し、捉えた中で、先ほど来のやりとりがなされていることを強く感じるところでございます。

それを考えたときに、例えば、一つの行事が終わったときに、設問項目を統一して、この行事はどうだったのだろうかということを精査するような形で、かなり立ち入った提案でございますが、してみたいかがかなというふうに考えておりますが、いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

教育長。

○教育長（鳥海 均）

学校はなかなか周りに対して、こんなことをやっていますということがうまくPRができないので、議員おっしゃるようなことが出てきてしまうのかなと思います。学校は全て一つ一つの行事が終わった後、それぞれの担当が反省をして、次年度に生かすべく評価をしております。ですから、同じ項目というのはなかなか難しいんですけども、例えば、学級懇談会に来た場合には、保護者アンケートというのを必ずとりますし、運動会等については、学級だよりや学校だよりにおいて意見を求めるというような形をとって、その都度、その都度評価しております。それができない場合には、年間を通して内部評価という形で、保護者の評価、児童、生徒の評価、教職員の評価という三つの観点から学校で内部評価をします。それとは別に、教育委員会で委嘱した、今年度は3人ですけども、教育評価をしております。議員の皆様にも8月ごろお配りしたかと思いますが、いろいろな意味で一つのことが終わった後、次年度どういうふうにそのことをやったらいいかということについての実践に対する評価、あるいは課題については明確にしているつもりですが、なかなかその都度、その都度、先ほど言いますように、天候の問題であるとか、さまざまな要素でうまくいかなかったこともありますけれども、それが次年度そのまま生きるかということとはなかなか難しいので、大局的にはほぼ学校行事というのは同じような形で同じような月々に行われているというのが現状であります。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

今、ご答弁いただきましたように、それぞれの行事はそれぞれの形で検証なされているということで、設問を統一するというのは、提案の例えばというような話でございます。中には保護者に同じ設問を出したときに、持ち帰ったときに、それがご負担になるようなことであれば、今、教育長がおっしゃったみたいに、学級懇談会の折にというようなことも、また一つの案ではないかというふうに考えているところでござ

います。

本当に教育というのは日々一刻一刻と変わっておりますし、先ほど来から申し上げますように、季節も天候も大変に異常な状態の中で、また、こういうご時世でございますが、子供たちの教育に携わる関係で、かなりの教職員の方々は日々の行事、また授業本当に邁進されているということを考えるところでございます。ますます教育委員会の存在は大きなことになると思います。

本日ご答弁いただいた中では、こういうような形で、こういうふうな仕組みがあるというようなお答えをいただきましたが、そこをまた一歩進んでいただいて、ソフト面ということで、本当に小さな町でございます、日々係るさまざまな方たちからも、いろいろな意見を頂戴しながら、柔軟にソフトな対応ができる教育委員会にますますなっていくことを希望したいところでございます。

また、学校というのは、本当に地域の宝でございます。学校は子供たちだけのものでもございません。本当に学校は子供たちを含む地域住民全てのものでございます。ますます学校が開成町にとって、本当にほかの町に誇れるような、さまざまな柔軟な行事を提案したり、ほかの行政では考えもつかないようなさまざまな行事が展開されるなど、どんどん新しいものを取り入れていっていただきまして、コミュニティスクール制度のPRも町民の方にしていただきまして、やはり神奈川県を席卷するような、本当引っ張っていくようないろいろな行事展開がなされることを希望いたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今の教育の関係ですけれども、松田文化センターで文命中学校の文化祭を見させていただいた者としてちょっと感想を話させていただきたいと思います。初めて多分開成町の外に出てやったということで、いろいろなご意見があるのはわかります。開成町の中で1,000人規模の施設があれば、多分こういう問題は出なかったのかなと思います。

あそこまで文命中学校の生徒が歩いていくところも、私は見ました。すごい人数で。そういう中でPTAの皆さん、先生、おやじの会という皆さんも、学校の生徒が安全に行けるように、いろいろなところに立っていました。文化会館の中でもいろいろな裏方として、自分たちも本当は見たいだろうけれども、お客さんのためにいろいろな苦勞している人もいました。

そういった中で、あの1,000人規模の中で、子供たちが発表できたということ、私はすごくよかったなど。見させていただいて、中学校の中ではわからない、味わいが味わえたと思う。子供たちも発表する前、どきどきしている話とか、ちょっと聞こえました。そういった中でいざやってみて、自分たちが練習した成果が、あの大観衆の中で発表できた経験というのは、すごく今後役に立つと思います。

一部ちょっと服装がおかしい子が実は出ていたんです。その前の日に、その子に声

かけられたんです。「町長、明日見に来てくれる」。いきなり言われて、ちょっと意味がわからなかったんですけども、文化祭のことだなと思って、「見に行くよ」と。その子が出ていたんですね。それは創作ダンスの部で出ていました。その子は生き生き踊っていましたよ。ああいう姿を見たときに、例えばどこかで問題があるのかもしれないけれども、ダンスの部においては、その子は得意分野だったのかも。そういうところで自分の自信をつけてもらえればよかったなど。私はあれを見たときに、本当によかったなど。初めて町外でやったことだし、いろいろ問題が提起されている部分があるかもしれませんが、子供たちにとってはいい経験を、あの校長は決断をして、させてあげたのかなという評価を私はしたいと思いますので、そういう部分において、前田議員もいろいろな新しいことという話がありますので、今までやっていないことをやると、とかくいろいろ言われるのがありますがけれども、いい部分においては、私はいいと評価をしたいと思いますので、そういう点において、教育委員会とは別の話で、町長としての感想ですので、ご参考いただければと思います。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

前田せつよ君。

○5番（前田せつよ）

すみません。町長からご感想をいただきまして、私も同様でございました。さまざま別の会場で開催されたことによって、いろいろな意見が出たということであって、私は別に町外だったからそれに対して大反対というような思いで、本日一般質問をさせていただいたわけではございませんので、本当に町長と同様の感想を持っているということは、ここで明々白々にさせていただきたいと思います。

町長からせっかくご感想をいただきましたので、ハード的なもので、町民文化センターを借用するに当たって、二十何万という形の費用がかかったということで、それは、本年度はPTAのほうから捻出されたというようなお話もございましたので、その点も踏まえまして、来年度の予算の計上というお考えもおありかどうか、お時間があるので、聞いてもよろしいでしょうか。すみません。町長からお答えをいただいたので。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

来年の予算の話も出ましたけれど、もちろんそれは教育委員会からきちんと予算請求されて、それは私はいいと思いますので、上がってくれば出したいと私は思っております。

以上です。